

平成二十四年度

中学校 第二学年 国語調査票

組		出席番号		氏名	
---	--	------	--	----	--

注 意

- 一 放送による合図があるまで、中を開かないでください。
- 二 先生の指示があつたら、最初に、組、出席番号、氏名を書いてください。
- 三 答えは、解答用紙にはつきりと書いてください。

一 放送を聞いて答える問題

メモ欄らん

--

音声問題録音台本（中学校 第二学年 国語）

これから、放送を聞いて答える問題を行います。放送は一回だけです。内容に注意して、メモを取りながら聞きなさい。

内容は、山田さんが国語の時間に行った意見発表です。では、始めます。

私は、国語の授業で書いた作文を新聞に投稿したことをきっかけに、一年前から新聞への投稿を続けています。自分の文章が選ばれて新聞に載ったときは、とても嬉しいです。

新聞に投稿することに関わって、私は二つの良さを感じています。

一つ目の良さは、新聞に投稿することで人とつながる喜びを感じることができるといふことです。

私が一番それを感じたのは、以前、私が公園の清掃活動について書いた文章に対して、その投稿を読んだ人が、意見を書いてくださったときです。

私は、去年の夏休み、公園にたくさん花火の燃えかすが落ちていたのを見つけて友達と拾いました。それ以来、部活動の友達と一緒に、月に一回、公園の清掃活動をしています。このことを新聞に投稿したところ、しばらくして、その投稿欄にある人が意見を書いてくださいました。その人は私たちの活動をととてもほめてください、「これからも頑張ってください」というメッセージを投稿してくださいました。

このように、自分の文章に対して言葉を返してもらおうという体験から、私は新聞の投稿を通じて人とつながる喜びを感じたのです。

二つ目の良さは、投稿欄に目を通すことで、自分のものの見方や考え方が広がるということだと思います。私は、新聞に投稿するようになって、他の人が投稿した文章を読むようになりました。先日、ある女性が書いた文章を読みました。その方は八十歳を過ぎても山歩きをされています。六十年以上山歩きを続けた結果、今も足腰が丈夫で、食事の用意や洗濯といった家事を全て自分でしていらつしやいます。さらに、学校帰りの子どもたちと声をかけ合うことを楽しみに、地域でも交通安全のボランティアをされているそうです。「お年寄り」と聞くと「助けてあげなくては」と思っていた私は、この女性のように、社会に役立つ活動をしながらか、生き生きと過ごしている方がおられることを初めて知りました。

私はこれからも新聞への投稿を通して、いろいろな人とつながったり、投稿された文章を読んで自分の視野を広げたりしたいと考えています。

これで放送は終わりです。

この放送で聞き取ったことをもとにして、調査票の問いに答えなさい。
それでは、調査票を開いて始めなさい。

(答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。)

一 今の放送で聞き取ったことをもとに、次の問いに答えなさい。

1 山田さんは、新聞への投稿とうこうを通して、これからもしていきたいと思っ
ていることを二つ述べています。一つは、いろいろな人とつながっていき
たいということです。次のア、イ、エの中から最も適切なものを選び、
その記号を書きなさい。

ア いろいろな人の意見をみんなに紹介すること。

イ 投稿された文章を読んで視野を広げること。

ウ お年寄りの文章を読んでメッセージを書くこと。

エ 出会った人たちの素晴らしさを伝えること。

2 山田さんは、新聞への投稿をきっかけに、ある体験をしたことから、
人とつながる喜びを感じました。どのような体験から人とつながる喜
びを感じるのでしょうか。書きなさい。

二 次の1〜6の問いに答えなさい。

1 次の①の―部の漢字の読みがなを書きなさい。また、②の―部のカタカナにあたる漢字を書きなさい。

- ① 一日の 勤務 が終わる。
② ギジュツ が進歩する。

2 次の□の中に同じ漢字一字を入れ、それぞれの熟語を完成させなさい。

□ 弱 ・ 最 □ ・ □ 力 ・ □ 勉 □

3 次の文では、() 中のア〜エのどれが適切ですか。最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。

わたしが健康になったのは、(ア) ひとえに (イ) ほのかに (ウ) いちずに (エ) むやみに (エ) 母のおかげです。

4 次の文の 入れました に対する主語はどれですか。次のア〜エの中から一つを選び、その記号を書きなさい。

わたしは (ア) 友達の (イ) 本を (ウ) ロッカーに (エ) 入れました。

5 「三寸ばかりなる人 いとうつくしうて みたり。」の―部を現代かなづかいに直して書きなさい。

6 次のア〜エは、それぞれの漢字について楷書かいしよと行書で表しています。行書で書いたときに誤っているものを一つ選び、その記号を書きなさい。

楷書 ↓ 行書

ア 花 ↓ 花

イ 続 ↓ 続

楷書 ↓ 行書

ウ 打 ↓ 打

エ 海 ↓ 海

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ぼくは、母親の仕事の都合で、祖父の家に祖父と二人でくらすことになる。母とはなれてくらす不安を抱えながら、祖父との新しい生活が始まった。

ぼくがものほしそうにしていたのか、おじいさんはなにも言わずに、ぼくにさつきと同じ分の半月スイカを渡してくれた。男同士という感じがした。おじいさんの真似をして、さりげなくあぐらをかいて、おじいさんのように、さっと高い位置から塩を振ってみた。まるで、いっぴしの大人になった気分だった。

藍色の空には、まだ星は見えなかったけど、どこかに月が出ているのか、雲の形がよく見えた。いつのまにか、母さんと離れたさみしきは薄れていた。

「おばあさんって、いつ、いたんですか。」

本当は「おばあさんはいつ死んだんですか。」って聞きたかったけど、それじゃあ、あんまりだと思って、そう聞いてしまった。

「もうすぐ、ひとまわりだなあ。」

おじいさんは、ぼくの質問のおかしさを追及しないで、そう答えた。

「ひとまわり？」

「干支が一周するということだ。ばあさんが死んでじきに十二年になる。」

十二年。ぼくよりも年上だ、と思わずへんな解釈をしてしまった。

ばあさん、というのは、おじいさんの奥さんで、母さんのお母さんということで、ぼくのおばあさんということだ。母さんがさつき、なにを迷ったのかは知らないけど、仏壇に手を合わせたのはいいことだと思う。

「ぼくもあとで、チンしていいですか。」

おじいさんは一瞬きよんとんとして、それから、

「ああ、頼む。」

と言った。あれがめずらしく手を合わせたから、今日はばあさんも喜んどう、と。

あれ、というのは母さんのことだとわかった。

夏の夜風が肌をなでる。

「どれ、わしももうひとつ食べようか。」

八分の一のスイカに塩をかけて、おじいさんは食べた。アブラゼミが一匹、貝殻をこすり合わせたような声で鳴きはじめた。闇の中、雲が流れていくのが見えた。

「ここはどうだ、慣れたか。」

ぼくはあんまりにもぼんやりとしすぎていて、おじいさんの言葉が、頬をなでる夜風みたいに自然で心地よくて一瞬間流してしまった。それからはとわれに返って、

「あ？ああ、はい！慣れました。」

と、あわてて答えた。

「そうか。」

おじいさんはうなずいて、ぼくはぼくで、新たな不安にはたと思ひあたり、実際不安になっていた。そして、夜を味方に思い切って聞いてみた。

「もしかして、ぼくがここに来て、おじいさんは迷惑めいわくだったですか。」

今の今まで考えもしなかったことだ。ぼくはあたりまえに越こしてきたけど、おじいさんはぼくが生まれる前から一人で住んでいたのだし、一人のほうが気が楽なのかもしれない。だけど、今日だって水槽すいそうをプレゼントしてくれたし、なによりもカレンダーに誕生日のしるしがしてあったし、朝いちばんで「おめでとう。」と言ってくれたし。だから、べつにそんなに迷惑めいわくじゃないと思うけど。でも、万が一。

「なにを言うか。そんなこと思っとらん。」

おじいさんは少し怒おこったように言った。さっきのセミが急に鳴きやんで、突然とつぜん静かになった。なんとなくきまり悪いような気がして、ぼくはなにか言おうと思ったけど、なにも思いつかなくて黙だまっていた。

「お前さんが来てくれて家が活気づいてきた。ハシラ①も、梁はりも、畳たたみも、廊下ろうかも。庭や植木も。みんな喜んぶる。」

おじいさんがゆっくりとしゃべった。ぼくはほっとした。

「それなら、よかったです。」

それからおじいさんは「さみしいか。」と、聞いてきた。ぼくは「さみしくくないです。」と答えた。おじいさんが横よこにいるから、（ ）さみしくなかった。

「水槽、ありがとうございます。」

「あ、ああ。新品じゃなくてすまん。」

「あの、えっと、おじいさんはなんで、ぼくの誕生日知ってたんですか？」

ぼくが質問すると、おじいさんは「そりや知ってるさ。」と笑った。

おじいさんがマッチで煙草たばこに火をつける。シュツという音とともに火薬けむりみたいな、どこか懐なつかしい匂においがした。おじいさんが鼻から吹き出す煙草の煙けむりが夜に流れていく。ぼくは、煙草の匂においを嗅かぎながら、新しい肉親にくしんがこうしてとなりとなりにいてくれることを、とてもたのしく感じていた。

(椰月美智子 「しずかな日々」による。)

1 ① のカタカナにあたる漢字を書きなさい。

2 文章中の（ ）にあてはまる最も適切な語を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア やがて

イ もともと

ウ かならず

エ もう

3 次の の中には、この文章を読んだ二人の生徒の会話が書かれています。あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

上田 「この文章には、母親と離れておじいさんとともに生活することになった主人公『ぼく』とおじいさんとの心の交流が、えがかれているね。」

木下 『『ぼく』の気持ちの変化が読み取れるよね。おじいさんの真似をしてスイカに塩を振ったり、藍色の空を見たりしているうちに、母親と離れた A は薄れていたみたいだけど、その後、『ぼく』は新たな不安に気づくよね。」

上田 「そうだね。『ぼく』は、おじいさんがずっと一人で暮らしてきたから、 I が迷惑ではないかと思ったんだよね。でも、おじいさんの返事を聞いてその不安は解消されたよね。」

木下 「そうだね。最後の場面では、おじいさんの吸った煙草の匂いを嗅ぎながら、『ぼく』は、 II 感じるまでになっっているね。」

(1) A にあてはまる最も適切な語を、文章中から四字でぬき出して書きなさい。

(2) I にあてはまる最も適切な語を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- ア 『ぼく』が水槽をねだったこと
- イ 『ぼく』が仏壇に手を合わせたこと
- ウ 『ぼく』がここに越して来たこと
- エ 『ぼく』が新しい生活に慣れないこと

(3) II には、『ぼく』の気持ちを表す言葉が入ります。あとの文に続くように、本文中の言葉を使って、二十字以内で書きなさい。

向に枝をのぼすことをさけ、すいている上を目指してのびるのが、フイトクロムによる指令だということがわかります。

このように植物は一本一本関係なく立っているのではなく、自分のいのちを守るために工夫くふうするばかりか、おたがいのためにゆずりあっているのです。

(野田道子 「植物は考える生き物!」による。)

1 ① の漢字の読みを書きなさい。

2 次の の文章は、文章中のどこに入りますか。文章のつながりを考え、文章中の の中から最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。

一方、フイトクロムが青、あるいはみどり色の光を吸収すると、「待て」というサインが出されます。植物は、その方向をさけてのびてきます。

3 次の は、文章をもとに、植物と環境との関係についてまとめたものです。() に入る最も適切な語句を、文章中から、(a) は四字、(b) は二字でぬき出して書きなさい。

植物には、さまざまな環境情報をキャッチする (a) がそなわっていると考えられる。その一つが光からの (b) をキャッチするフイトクロムである。

4 文章中の の段落は、文章の中でどのような役割をもっていますか。次のア～エの中から最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。

ア それまでの内容を受けて、新たな疑問を提示している。

イ それまでの内容を受けて、分かったことをまとめている。

ウ それまでの内容を否定して、別の話題を提示している。

エ それまでの内容を否定して、その理由を説明している。

五 山田さんの学年では、地域の方と交流を深めるため、ふれあい音楽会を開くことになりました。音楽会について知らせる方法について話し合ったところ、「案内文を送る」、「ポスターを掲示する」という二つの意見に分かれました。そこで、どちらがよいかについて自分の考えを書くことになりました。

次のアとイは、どちらも「案内文を送るのがよい」と主張している文章です。二つを比べたとき、あなたは、どちらが「案内文を送るのがよい」と主張する意見文として適切だと思いますか。アとイを読み比べ、【注意】にしたがって書きなさい。

ア 私は、案内文を送るのがよいと思う。なぜなら、案内文を送れば、地域の方が、ふれあい音楽会の日時や場所、内容について、必要なときに読み返すことができると思うからだ。

私は、以前、地域で行われる行事の案内文をもらったことがある。案内文には、その行事がいつ、どこであるか、その行事でどのようなことをするか、くわしく書かれていた。行事が開催される前日の夜、私は時間が分からなくなつたが、案内文で確認することができた。ポスターでは、知りたいことがあつても、すぐに調べることができないと思う。

以上のことから、ふれあい音楽会の日時や場所、内容を知らせるには、案内文を送るのがよいと思う。

イ 私は、案内文を送るのがよいと思う。なぜなら、案内文を送れば、地域の方が、ふれあい音楽会の日時や場所、内容について、必要なときに読み返すことができると思うからだ。

私は、以前、地域で行われる行事の案内文をもらったことがある。案内文には、地域の方からのメッセージが書かれており、受け取った時にとでもうれしかった。行事の後で私は、お世話になった地域の方に、行事の感想をふくめてお礼の手紙を書いた。このことをきっかけに、地域の方と手紙のやり取りをするようになり、親しく話ができるようになった。

以上のことから、私は、今後も地域の方と手紙のやり取りを続けて、いつでも話ができる関係を作っていきたいと思う。

【注意】

- 題名は書かずに、本文から書き始めること。
- アとイのどちらが適切かを書いた後に、理由を書くこと。
- 理由は二つ以上書くこと。
- 理由はアとイを比べた内容にすること。
- 適切な段落を設けて書くこと。
- 一六〇字以上二〇〇字以内にまとめて書くこと。

これで問題は終わりです。